

# フラワーデモ すべての暴力に反対

性暴力や性差別を許さない市民の集まりでつくる「フラワーデモ@香川」は11日、高松市内の商店街で花やプラカードを手にスタンディングを行いアピールしました。



初めて参加した市内在住の河野朋子さん(95)は、「参加できて嬉しい。孫の世代が苦しまないためににも社会を変えたい。すべての暴力に反対です」とヤクルマンソウを片手に語りました。

## 金曜行動 原発廃炉

原発をなくす香川の会は15日、百貨店前で原発廃炉を求めるスタンディングを行いました。



方法は「福島に連帯しよう」などシブプレヒコールを上げ、廃炉を願う旗を手に思いを語りました。自然、再生可能エネルギーへの転換を求める声も聞かれました。14日は熊本地震から6年でした。原発を停止しても、長期間保管され続ける核燃料や廃棄物が、将来の自然災害に耐えるか心配も聞かれます。

# 民主香川

定価 月 100円  
発行所 民主香川社  
高松市藤塚町3丁目13-14  
☎(087)834-7311

## 憲法を守ることは

### 世界平和への貢献

#### 《平和憲法を生かす香川県民の会》

平和憲法を生かす香川県民の会は13日、高松市内で早朝宣伝を行いました。「憲法って何？」などと書かれた横断幕を掲げ、通勤、通学中の人々

にビラを渡しました。日本共産党の岡田まなみ高松市議、立憲民主党の吉峰幸夫高松市議、社民党連連の三野ハル子代表、新社会党県本部の井角操委員長、みどり・香川の野中康生さん、香川県労連の藤沢義輝事務局長、護憲香川の森明氏がリレートークしました。



岡田まなみ市議はロシアによる無差別攻撃により、多くの市民が犠牲になっていると話し、「日本では憲法9条の下で、戦後77年間、戦争で誰一人殺さず、殺されることもなかった。5月3日の憲法記

## 石田候補に聞く

今夏の参院選に初めて立候補を決意した石田まゆきさんに思いを上下連載で掲載します。

### 《プロフィール》

82年津田町生まれ、40歳。日本共産党青年学生部長、原発をなくす香川の会事務局長、党県議団事務局長。

原発再稼働反対の金曜行動に10年間取り組んできました。12年7月、3人から始め、翌週には廃炉を願う市民が来ていてしばらくすると自然に一緒にするようになっていました。市民運動の参加者は、オリジナリティでアピールしたり、ゼンザイなどを用意してくれて、励まされています。記者会見してからは「出るんですね」と舌をか

これまで続けてこられた原動力は、福島へボランティアに行った経験と、始めたころは関東からの避難者もいましたので「放射性物質」「子どもへの影響」など心配の切実な思いです。ボランティアには福島や宮城に数回行きました。11年の初夏に行った時は、ガレキや漁船が陸に打ち上げられていました。津波の威力のすごさ、どこまで津波が来ていたのかを実感しました。ニュースで見えていたものと実際見ていたのとは大きく違っていました。現地では仮設住宅や在宅避難者のところへ訪問し、お困りごとを聞いて回りま

大熊町ではフレコンパックという汚染土壌を入れた黒い袋が山積みでした。町内の焼却場で処分されるのだと言います。かなりの衝撃でした。また放射線量の高い地域の国道沿いでは車の窓を開けないでください、意味では記者会見でも強調の外へ出ないでくださいなどの注意があり、見えない放射線の影響が原因です。あちこちにある線量計など福島特有の光景です。原発事故が無ければこの復興ももっと早く進んだらと思う電力需要の5倍です。国が本気になれば切り替えられる、党の「気候危機を打開する2030戦略」をおおいに語ってきたい。



（つづく）  
次回は民青県委員長としてかわったことなど）

念日を前に、憲法を守り抜くために力を合わせましょう」と呼びかけました。野中康生氏は、「基本的人権、生存権、戦争放棄など、憲法には素晴らしい理念が盛り込まれている。今こそ憲法

法の価値や可能性について考え話し合おう」と訴えました。井角氏は、「平和憲法のありる日本が、9条を守ることが世界の平和に貢献することになる」と力をこめました。

## 小豆島・綾川・まんのうの各町議選 2氏が再選

17日、小豆島町、綾川町、まんのう町の各町議選が開票され、小豆島、綾川両町で議席を確保しました。まんのう町は落選しました。

小豆島町の鍋谷真由美氏は472票で9位当選。旧町時代を含め9期目の当選を果たしました。綾川町の安藤利光氏は1226票で1位当選。旧町時代を含めて12期目の当選を果たしました。まんのう町の小山直樹氏は282票で18位。再選はなりません。日本共産党のひそうへい参院比例候補が、応援演説に入りました。



## 異台教太

4月24日は、JR北海道・歌志内線がこの日限りで廃止された。1988年のことである。北海道砂川市から歌志内市内の14.5キロを結んでいた。国鉄民営化が1987年だから、すぐに廃線となってしまった。その後、JR発足後に計694キロで廃線、また様々な形態で赤字路線の第3セクター化がされ、高千穂や北海道ちほくなどは、利用者の減少や自然災害を理由に3セク後に全廃されている。加えて、2000年以降は、国の許可が必要だった赤字路線の廃止手続きは簡略化された。広島市の可部線は、非電化区間が廃止されたあと、一部に新興住宅が立ち並びはじめ、14年後にごく一部の区間が、復活する皮肉も。大切な日常生活路線も力次第か。住民、利用者の要望が強ければバス転化やバス専用路線への転化もあっていい。だが、北海道や九州、北陸の整備新幹線開業とともにJRから経営分離する幹線も。かつて、特急や夜行列車が駆け抜けていた岩手や青森県内の東北本線も、九州縦断の鹿児島本線も、新幹線延伸によりJRから分離（一部分離）され三セク化。青春切符でふり旅も、そこは別途負担が必要だ。四国に新幹線を目指す浜田知事は、JRが責任を持って在来線の運営を、と言っているようだが、果たしてそうできるのか？ 法律としての『整備新幹線』に含まれてないので安心しているのか？ しかし莫大な建設費用に自治体の負担だけが増え、在来線の利便性は悪くなる可能性は高い。バラ色に描かれるその裏も直視しないといけない。